



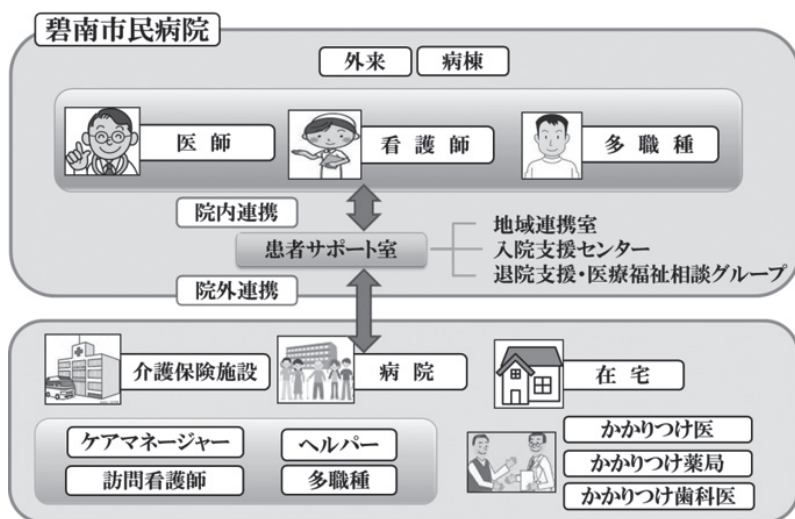
市民病院

ハナちゃん通信

問 市民病院管理課
☎(48)5050

市民病院の患者サポート室を紹介します

患者サポート室では、すべての患者さんが安心して療養が受けられるよう、また退院後、その人らしく地域で生活できるように、3つの部門（「地域連携室」「入院支援センター」「退院支援、医療福祉相談グループ」）が一体となり、包括的な支援ができるよう取り組んでいます。



【地域連携室】

診察や検査の予約受け付けや、他病院への予約を取らせていただくなど、地域の関連機関との窓口となります。

【入院支援センター】

予定入院の患者さんに対して入院前の外来から関わることで、患者・ご家族が安心して入院生活を送ることができるよう支援を行います。

【退院支援、医療福祉相談グループ】

通院・入院中の患者さん、ご家族が安心して療養生活が送れるように看護師、ソーシャルワーカーが支援を行います。お気軽にお声かけください。

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史
資料調査室
☎(41)4566

No.68 服部長七と人造石

昨年、碧南出身の土木事業家・服部長七（1840～1919）の没後100年を記念し、藤井達吉現代美術館で「没後100年 服部長七と近代産業遺産展」を開催しました。そこで今回は改めて、服部長七と人造石を振り返ります。

現在の碧南市西山町に生まれた長七は、在来の左官技術の「たたき」を改良し、花崗岩を組み合わせた「人造石工法」（長七たたき）を考案しました。

「たたき」は、消石灰と真砂土（風化花崗岩、サバ土）を原料に水を加えて練り、この練り土をたたき締めたものです。企画展関連のワークショップでは、ホームセンターでそろえた消石灰と真砂土を材料に、一般参加者に人造石を作っていただきました。このように、配合比に注意すれば（当時は秘密でしたが）左官業の方には難しくない技術でしょう。ところが、当時画期的だったのは、長七がこの「たたき」を大規模土木工法として確立したことです。これにより、

コンクリート工法が普及する過渡期に、長七は人造石工法により全国各地で堤防、港湾、樋管などを造りました。堤防では高浜の服部新田や豊橋の神野新田、港湾では宇品港（現広島港）や四日市港、熱田港（現名古屋港）などが挙げられます。

長七が考案した「人造石工法」は、試行錯誤のうでで獲得したものでした。長七は、30歳ごろまでいろいろな職業を遍歴して上京し、東京の市民にきれいな水をと「たたき」による濾水器を研究しました。その一方、たたき工事で信用を得て、岡崎・夫婦橋、高浜の服部新田の順に、人造石工法の規模（実績）を積み上げていったのです。

この工法を実際の工事として進めるため、多くの入夫を統率する力もありました。また服部組を組織し、番頭の岡本小治郎（新川）に現場監督を任せたとようです。このような組織力も併せ、長七は明治37（1904）年まで人造石工事を手掛けました。

次号では昨年、服部長七が手掛けたことが確認された前浜新田護岸のバスツアーをご案内します。